

会長研修会報告

会長研修会は福島県震災復興視察をテーマに 9 月 13 日早朝に町田から一路、福島市と南相馬市へ赴きました。

まず福島市では放射線、中間貯蔵など環境再生の歩みに関する情報を展示、発信している環境省環境再生プラザを視察しました。福島第一原発事故による放射能汚染の環境回復は放射線量の低減状況で示され、各種展示で確認できます。放射能汚染低減のための除染の実際や中間貯蔵の施設事業、さらにこれからの環境再生の取り組みも示している。

また、「福島の今を知る、そのための放射線の基礎知識」の講義を受け、放射線を正しく認識し、特性を理解しました。現在では放射線の影響は抑えられ安心して暮らせるレベルであると講師の方は強調していました。しかし放射能汚染の解決に膨大な資源が投入されていることが環境再生プラザで分かり、改めて原発事故の強大な影響力に、大きな脅威を感じました。



ふくしま環境再生プラザの展示

環境の再生、回復に努めたことで、汚染レベルは着実に低下したが、帰還困難地域など未だ通常の生活に戻れない現実もある。除染で生じた低濃度廃棄物は今も大量に保管されており、いずれ最終処分する必要がある。また原発は廃炉への道のりが見えず、地域の方々にはこれからも負担が強いられます。また、食品の汚染対策は生産現場で放射性セシウムを減らす努力を続けており、基準値を満たす食品のみが出荷されている。安全ではあるが、多大な管理負担の上に成り立っているのが現実です。

福島の再生、復興には福島産品を購入するなどの支援を続けることが必要だと痛感させられました。

翌日は南相馬市の津波の被害の軌跡をたどるため、南相馬市消防・防災センターを訪ねました。目の前には真新しい仮設住宅があり、復興途中を感じさせられます。防災センター内は津波の被害の展示がありましたが、津波の脅威はこの後のボランティアガイドさん同行の被災地バスツアーで実感することになります。南相馬を代表する「相馬野馬追」ゆかりの地、道の駅南相馬から津波被害の大きかった海辺へバスで向かいました。



南相馬市はなに消防・防災センター

バスから見える光景はもう津波の爪痕など微塵も見られず、ほとんど何もない。しかし送電鉄塔が何本も一気に倒されたとか、「ここに家が何軒あって、住んでいた誰れさんが流されて・・・」と現地のガイドさんの福島訛りの語りを聞きながらバスは走る。一瞬にしてすべてを、命までも奪われた現場は確かにここだったのだ。目の前に広がる何もない景色は7年半の重い時を一気に駆け抜ける。TV 画像では見えない当時の光景が広がり、今その場にいるような空気にバスの中は一声もなかった。



低濃度廃棄物仮置き場（塀の向こう）

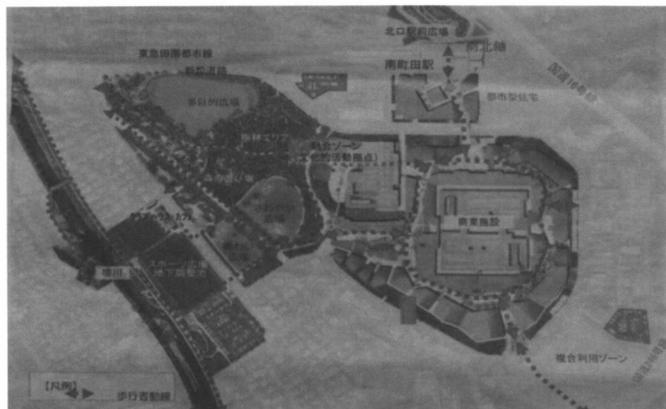
津波からの復興はまだ道半ば、私たちはどう支援し協力できるのか、今回の研修では考えさせられました。

編集委員 鈴木則夫

南町田「まちづくり」プロジェクト

町田市と東京急行電鉄（株）では「みんなとつくる新しいパークライフの実現」を目指して鶴間公園・商業施設・南北自由通路などを同時一体的に再整備する「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」を進めています。

鉄道駅に都市公園と商業施設が隣接しているという南町田ならではの条件を最大限に生かし、町田市内において、町田駅に次ぐ自然とにぎわいが融合した全国でも例を見ない魅力的な空間が現れようとしています。



(プロジェクトの案内図)

南町田はどんな町

町田の南端にあり 1976 年（昭和 51 年）に東急田園都市線の延長に伴い設置された南町田駅を中心に大きく発展した町です。渋谷まで田園都市線一本で行くことができます。良好な街並みが維持されており、隣接する鶴間公園は緑豊かな森林です。30 年前は子供マラソン大会などが行われていました。東急電鉄（株）による開発も進められ 2000 年にはアメリカ郊外のオープンモール型を採用した大型商業施設「グランベリーモール」、2006 年に「シネマコンプレックス」などがオープンした。南町田は住宅地としてだけでなく、商業地としても賑わうようになってきた。

プロジェクトの歩み

町田市が 2008 年 2 月に南町田駅周辺地区整備計画検討会を発足させ、国道 16 号町田立体事業や駅北口広場など、南町田駅周辺の道路整備に関する内容を中心に、関係者間で意見交換を行うことになった。地元 5 つの町内会・自治会と東急電鉄（株）、国土交通省川崎国道事務所が集まって 2019 年までに完成を目指し、現在まで進んできている。



(駅の南北自由通路を交える構想図)

人々の交流を育む公園エリア

地域に親しまれている鶴間公園は、いま新しく生まれ変わります。現在の鶴間第 2 スポーツ広場も整備しまた駅・商業施設・境川とのつながりを生み出すことで活動領域が広がります。バリアフリー性と安心安全が考慮され、質を高めた都市公園になります。また鶴間公園と商業施設が続いていく「にぎわいの融合ゾーン」では新しい南町田の楽しみ方、パークライフの体験ができる空間として、訪れる人々の交流を育む場として進められている。

地域の新しい拠点

南町田駅北口広場が 2017 年 4 月にオープンした。北口広場では新しい都市計画道路も開通し、町田駅方面などを結ぶ路線バスのほか、新たに空港行のバス停ができ、多方面にアクセスしやすい便利な南町田駅になっている。



北口駅広場バスターミナルから見た国道 16 号高架線

また、新たに交番の設置が予定されるなどこの広場は地域の新しい拠点となっていきます。

編集委員 火ノ川 待雄